

[日光国立公園 NOW]

日光国立公園はこんな公園

- ・ほぼ全域が那須火山帯の中に入った山岳地で、火山がつくった湖沼、滝、渓谷など多様な自然景観が見られる
- ・各地域とも古くから温泉が開かれ、多くの特色ある温泉に恵まれている
- ・日光の二社一寺をはじめ那須、旧塩原、旧田母沢の御用邸など、文化景観にも恵まれている
- ・首都圏からのアクセスが良く、手軽に歴史文化や自然に親しむことができる

■日光エリア

- ・火山がつくりだした変化に富む奥日光の自然景観が、外国人も含む多くの人々を引きつけている
- ・信仰の対象となった山々と世界遺産「日光の社寺」があり、歴史を感じさせる地域でもある
- ・奥日光の車両通行規制と電気バスの導入など、自然環境保全と上質な利用の推進への取り組みが進んでいる



中禅寺湖と男体山



神橋

■那須・甲子エリア

- ・火山である那須連峰とその広い裾野が、雄大な山岳景観を見せている
- ・那須の自然とふれあう場として、環境省の管理する「那須平成の森」が利用されており、那須の新しい公園利用の形が生まれている
- ・九尾の狐伝説など、温泉や火山に関する多くの伝承が伝わっている



茶臼岳



那須平成の森

■塩原エリア

- ・特に渓谷の美しさに秀でており、多くの文人が訪れた塩原渓谷歩道も充実して利用しやすい
- ・塩原温泉は高原山火山の北麓にあり、周辺には噴気、節理、化石等地学的興味対象が多く存在する



塩原渓谷歩道



木の葉化石

■鬼怒川エリア

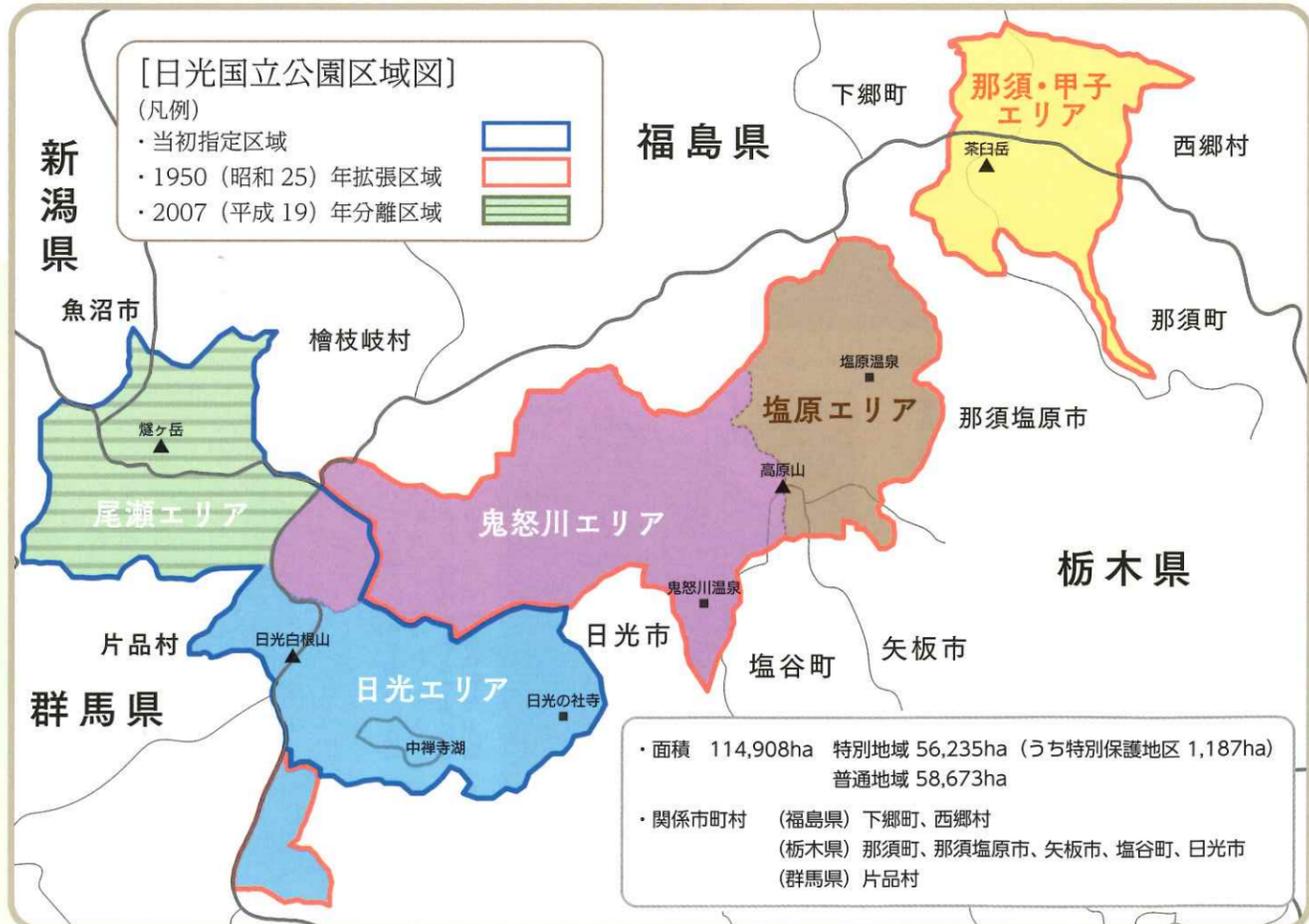
- ・龍王峡の散策、鬼怒川での川下りやラフティングなど、川の魅力を生かした利用が進んでいる
- ・鬼怒川地域には大規模な温泉宿泊施設が立地し、これを生かした新たな利用が模索されている
- ・栗山地域には里山が多く、急減する二次草原を守る活動も活発に行われている



鬼怒沼湿原



土呂部・茅ポッチ



日光国立公園 90年のあゆみ



発行：環境省 日光国立公園管理事務所

〒321-1434 栃木県日光市本町9-5

日光の社寺の景観保存運動

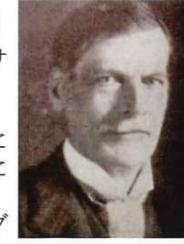
- ・神仏分離による日光の社寺と景観の破壊を止めるため、落合源七、巴快寛ら日光町民が運動を起こす
- ・アメリカのグラント將軍の来見を機に、募金によって社寺の保存を行うための民間団体「保見会」を結成(1879(明治12)年)



保見会の碑

外国人の奥日光紹介とリゾート化

- ・1872(明治5)年英国人アーネスト・サトウが、日光の旅記「A GUIDE TO NIKKO」を出版。
- ・1887(明治20)年頃から、中禅寺湖畔に外国人の別荘が建ち始め、大正末期までに40軒以上に。
- ・大正年間に紳士の釣りクラブ「東京アングリング・エンド・カンツリー倶楽部」が発足。



アーネスト・サトウ 飯野達夫「天空の湖と近代遺産」より転載

NIKKO NATIONAL PARK
日光国立公園の誕生
 1934(昭和9)年12月4日
 日光・尾瀬エリア
 56,923 ha

日光国立公園設置の請願

- ・日光の社寺および自然美を保護するため、1911(明治44)年、日光町長が全国で初めて「日光山ヲ大日本帝国公園ト為スノ請願」を帝国議院に提出、採択される。
- ・その後も1922(大正11)年までの間、6回にわたって同様の請願を行う。

尾瀬の発見

- ・1890(明治23)年、平野長蔵が尾瀬沼畔に行人小屋を建て(尾瀬開山)、その後山小屋を建設。
- ・アーネスト・サトウの子で植物学者・登山家の武田久吉が1905(明治38)年に日光から金精峠を越えて尾瀬に入る。翌年、日本山岳会報で「風光の類まれなることに驚倒」と尾瀬のすばらしさを紹介。



金谷カッテージ・イン

観光・交通施設の発展

- ・明治年間には外国人向けの宿泊施設がつけられ、国鉄日光線や日光駅と馬返間の電車などが開通。
- ・昭和に入ると東武日光線を初め、登山電車、ロープウェイ、華厳の滝エレベーターなどが開通。
- ・日光の観光客数70万人に1933(昭和8)年

全国的な国立公園指定への動き

- ・1911(明治44)年、日光町長が請願を提出したのを皮切りに、その後各地から国立公園指定の請願が続く。
- ・1921(大正10)年から昭和6年にかけて内務省による国立公園候補地調査が行われる。
- ・1931(昭和6)年に国立公園法が制定され、アメリカとは異なる形の国立公園が指定されることになった。

90周年を迎えた国立公園の仲間たち

1934(昭和9)年、日本で初めて国立公園8か所が指定された。当時の国立公園の「選定方針」の条件である「我が国の風景を代表するに足る自然の大風光を満たし、雄大な風景地が選ばれている。」



瀬戸内海国立公園 (五色台より)



阿寒(現阿寒摩周)国立公園 (摩周湖)



大雪山国立公園 (エゾタカネスミレ)



中部山岳国立公園 (上高地)



阿蘇(現阿蘇くじゅう)国立公園 (二次草原の山々)



雲仙(現雲仙天草)国立公園 (平成新山)



霧島(現霧島錦江湾)国立公園 (ミヤマキリシマ)



◀1938(昭和13)年
特別地域、制限緩和地区(普通地域に相当)、保存地区(特別保護地区に相当)等、国立公園の保護計画を決定

1950(昭和25)年▶
那須、塩原、鬼怒川等を日光国立公園区域として拡張、公園面積は143,590haに



◀1974(昭和49)年
入山者数を抑えるため、尾瀬の鳩待峠と沼山峠で「マイカー規制」を開始、規制区間に代替バスを運行

1976(昭和51)年▶
戦場ヶ原の帰化植物(オオハンゴンソウ)除去のボランティア活動を開始



◀1986(昭和61)年
美化清掃等公園管理全般にわたる活動を行う「日光パークボランティア」と、利用者に自然解説を行う「尾瀬自然解説ボランティア」が発足、活動を始める

1992(平成4)年▶
塩原溪谷歩道の全線が開通(箱の森~墓石園地、全長約7キロ)



◀1993(平成5)年
奥日光の市道1002号線(赤沼下~小田代原~干手が浜)が、環境保全のため車両全面通行止めとし、低公害のシャトルバスを運行

- 1934(昭和9)年
日光の観光客が70万人に
- 1935(昭和10)年
栃木県が「日光国立公園施設計画案」を作成
- 1940(昭和15)年
国が「日光国立公園一般設計案」を作成
- 1941(昭和16)年
武田久吉「尾瀬と日光」を出版
- 1946(昭和21)年
戦場ヶ原に17戸が入植、開拓を始める
- 1949(昭和24)年
尾瀬保存期成同盟結成
- 1949(昭和24)年
NHKラジオで「夏の思い出」放送
- 1951(昭和26)年
湯元から中宮祠へ温泉引湯管を敷設
- 1952(昭和27)年
尾瀬の福島県区域で木道敷設
- 1953(昭和28)年
日本で初めて国立公園管理員(レンジャー)を湯元に配置
- 1954(昭和29)年
いろは坂有料道路が開通
- 1956(昭和31)年
湯元に県下初のスキーリフトが完成
- 1958(昭和33)年
塩原自然研究路(新湯~前山)開設
- 1959(昭和34)年
光徳で第1回国立公園大会が開催
- 1960(昭和35)年頃
那須茶臼岳での硫黄採取が終了
- 1960(昭和35)年
日光国立公園管理事務所が建設
- 1961(昭和36)年
昭和天皇がツツジ地区でナスヒオウギアヤメを発見
- 1961(昭和36)年
リフトのある町営那須岳スキー場開設
- 1962(昭和37)年
那須岳ロープウェイが開設
- 1962(昭和37)年
昭和天皇が生物学御研究所から「那須の植物」を刊行
- 1964(昭和39)年
全国初の「日光湯元ビジターセンター」開館、郵便局等が入る
- 1964(昭和39)年
尾瀬沼ビジターセンターが開館
- 1965(昭和40)年
第2いろは坂、金精有料道路完成
- 1966(昭和41)年
湯元公共下水道終末処理場が完成

日光国立公園年表



◀1994(平成6)年
塩原エリアにビジターセンター「塩原温泉ビジターセンター」が開館。温泉のイメージが強い塩原で、自然ふれあい活動が活発に

1998(平成10)年▶
シカの食害を防ぐため、小田代原に電気柵を設置。また2001(平成13)年には、戦場ヶ原の周囲にシカ柵を設置。これらにより湿草原の花が復活



◀1999(平成11)年
日光の二社一寺(二荒山神社、輪王寺、東照宮)の建造物及び周辺区域がユネスコの世界遺産(文化遺産)に登録される

2005(平成17)年▶
「奥日光の湿原(湯ノ湖、湯川、戦場ヶ原、小田代原)」および本州最大の湿原「尾瀬」がラムサール条約湿地に登録され、湿原の保全と賢明な利用を前進させることになった



◀2007(平成19)年
尾瀬エリアが日光国立公園から分離、会津駒、田代帝釈等の区域を加えて、面積37,222haの尾瀬国立公園として独立。

2011(平成23)年▶
環境省に移管された旧那須御用邸敷地に、誰もが自然とふれあえる場として「那須平成の森」が開園

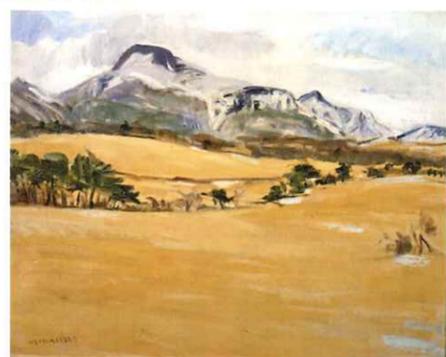


- 1966(昭和41)年
尾瀬アヤメ平で湿原回復事業開始
- 1970(昭和45)年
八方道路(学校平~大間々)が開通
- 1970(昭和45)年
歌が浜の埋め立て工事が開始
- 1971(昭和46)年
尾瀬の車道計画(三平下~沼山峠)を廃止
- 1972(昭和47)年
日塩もみじライン有料道路が開通
- 1972(昭和47)年
尾瀬ゴミ持ち帰り運動始まる
- 1976(昭和51)年
戦場ヶ原の帰化植物(オオハンゴンソウ)除去活動開始
- 1978(昭和53)年
調査報告書「日光戦場ヶ原湿原の植物」刊行
- 1983(昭和58)年
旧塩原御用邸の一部を移築、天皇の間記念公園が開園
- 1984(昭和59)年
大雪により大量のシカが餓死し、中禅寺湖が凍結
- 1991(平成3)年
中宮祠に日光自然博物館が開館
- 1992(平成4)年
水質浄化のため湯ノ湖のしゅんせつ工事開始
- 1993(平成5)年
八丁の湯一大清水間の奥鬼怒スーパー林道が完成(一般車両通行不可)
- 1994(平成6)年
日光湯元ビジターセンターが建替
- 1996(平成8)年
尾瀬の入山者数が65万人でピークに
- 2000(平成12)年
イタリア大使館別荘記念公園を整備、16年後英国大使館別荘を同様に整備
- 2004(平成16)年
塩原町を主会場に第46回自然公園大会が開かれる
- 2008(平成20)年
那須御用邸敷地の一部が自然ふれあいの場として環境省に移管
- 2010(平成22)年
市内の自然ガイド有志が「日光自然ガイド連絡会」を設立
- 2011(平成23)年
那須高原ビジターセンターが開館
- 2012(平成24)年
国立公園絵画80点が国立公園協会から小杉放菴記念日光美術館に寄贈
- 2013(平成25)年
土呂部の二次草原保全団体「日光茅ボッチの会」が活動開始
- 2016(平成28)年
「日光国立公園満喫プロジェクト」が開始
- 2020(令和2)年
日光市内のガイド事業者が「日光自然ガイド協議会」を設立

国立公園絵画で見る日光国立公園

国立公園協会の完成した2012(平成24)年に、国立公園協会の小杉放菴記念日光美術館に寄贈された。80点が完成。2012(平成24)年に、国立公園協会の小杉放菴記念日光美術館に寄贈された。

国立公園絵画とは



中野和高「那須」1953年

高原の白雪は目にまぶしい。那須おろして画架のすえてあるゴルフ場は風で雪が払われて積もらない。黄色い枯草が出てくる、仕事の半ばで雪は無くなってしまふ、結局はまた前の絵を続けることとする。寒い寒い、飛び上がって活動して見る。



猪熊弦一郎「塩原の溪流」1953年

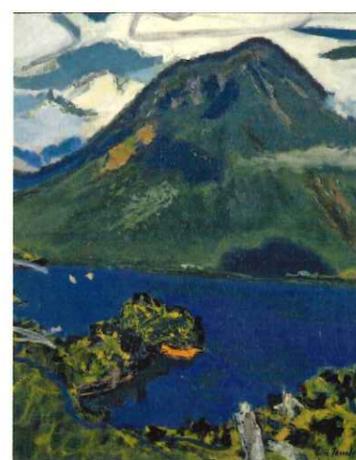
あわい緑もあれば鉄さびのような赤い石もある。時には貝の化石がはさまった面白い石もあるし、黒い石もあって水よりもついでこの石に気を取られてしまった。国立公園の風景面を描きに来たのであるが、石の風景に魅せられてしまった。

© The MIMOCA Foundation



田辺 至「秋の戦場ヶ原」1932年(頃)

にぶい銀色の空、背景の黒い山、前景の落葉松のわずか残った黄色い葉は、もう雨でも降ったらひとたまりもなく散ってしまふような風情、それに下草の白茶色の茂みに風が渡って、このところ、戦場ヶ原でなくては見られない趣を感じながら筆をとりました。



田辺三重松「中禅寺湖」1957年

わけてよいのは崖くづれの赤い山ひだで、密林の山肌を巨大な三角ノミでひっかいたような幾筋かの豪快な荒刻りの崖は、茜色に映えて男体山をいきいきさせているのである。私は一辺に画興が動いたのだった。

小杉放菴記念日光美術館
1997年10月に開館した、栃木県日光市立の美術館です。「自然へのいっしょくしみ」を基本テーマに、日光出身の画家・小杉放菴(1881~1964)や周辺作家をはじめ、日光市ゆかりの美術・文化を紹介しています。

